

本校は、今年度、ユニバーサルデザイン教育推進事業推進の指定を受けました。誰もが学校生活を送りやすい環境をめざした取り組みを意識しました。その一端を紹介します。

## 1 ハード面からのアプローチ

### (1) 教室前面掲示をシンプルに



教室の中には、前面にある貼り紙などが気になる生徒がいます。学習しやすい環境づくりをめざし、「黒板の周辺をシンプルに」することを年度初めに意識しました。

### (2) シンプルな移動にするために



屋根付きの外廊下になりました。雨の日の給食配膳時、ここが通れないために、3年生教室前の廊下を通る生徒で混雑していました。屋根付きになることで天候に関係なくスムーズな通行が可能になりました。

### (3) 視覚からも学べる機器の充実



体育館で機器を使った授業を仕組む際、短焦点のプロジェクターがあると短時間で準備ができます。なぜなら、ステージ上にパソコンを設置できるからです。これまでは、ステージ下の床で、やや時間を要しました。限られた台数で授業で使うのにWブッキングすることもありました。



プロジェクターより簡単に準備ができる電子黒板。

今年度、各学年に2台ずつの電子黒板が入りました。視覚刺激で学びやすくなります。短焦点ジェクターと合わせ機器が増え、Wブッキングすることも解消されました。準備に手間取ることも解消されました。

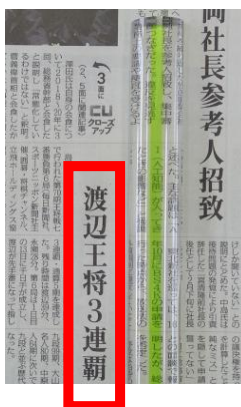
#### (4) 学びやすい教材・教具をそろえる

復習をもっと取り入れたいと考えている生徒のためにそろえた教材・教具があります。「自分でできる」「学びたくなる」「分かるから楽しい」これらを可能にする物を探しました。



特別支援学級の棚の一部に教材を置いています。自主学习で漢字の書き取りをしたい場合に使えます。ユニークな学習方法が紹介されています。

貸し出し用のカラールーペです。教科書を読む際に、なぜか飛ばして読んでしまいやすい、文字が見えにくいときに試してください。



ルーペを当てるとこのくらい読みやすくなります。



## (5) その他



クールダウンできる空間や学級活動にも生かし、知的で楽しく学ぶ意欲を高める「ペーパーチャレラン」もそろえました。図書館にはSDGs関連の書籍を入れてすぐのテーブルに置きました。身近な生活に関心をもってほしいです。

## 2 ソフト面からのアプローチ

### (1) スクールカウンセラーからのメッセージ



お昼の放送時間を活用して、自分と相手の両者を尊重しながら、どのような伝え方があるのか、時折、話していただきました。

#### 【 放送を聴いた生徒の感想 】

- \*自分の気持ちが楽になってきた。ホッとした。
- \*誰も「私」になりかわることができなく、「私」は大切な存在だと分かった。
- \*他の話も聴きたくなった。
- \*自分ではなかなか気づかないことを言葉にして分かりやすく話してくださるので、どうすればよいのか解決策を見つけやすいと思った。
- \*その時、悩んでいる人の心の支えになると思いました。
- \*困っているときに放送で聴いたメッセージで救われたことがありました。
- \*言葉が心に響き悩みが軽くなった。困ったときにどうすればよいのか分かりました。
- \*自分の思いを伝える方法が生活の中で役立った。
- \*友達の中に困っている人がいないかと気にするようになった。
- \*いつも最後に流れていた「あなたはただ一つの大切な存在なのです」というメッセージが良いなと思いました。

(2) 健康に暮らすために (3校合同研修会)

夏休みに鶉ノ島小学校・藤山小学校・藤山中学校の教職員が集い3校合同研修会をおこないました。2名の先生講話をお願いしました。

さかき たもつ  
前半は、酒木 保 先生。



現職:宇部フロンティア大学心理学部心理学科 教授  
NPO 法人メンタルヘルス研究所 理事長  
発達障がい等相談センター「そらいろ」 臨床心理士

「記憶と睡眠」と題して興味深い内容を話されました。

「眠気がとれる・記憶力があがる・理解力があがる・判断力があがる・ストレスの軽減・糖尿病の防止・肥満防止」など、たかが睡眠されど睡眠と思わせる内容でした。また、参加者の多くが仮眠の意外な事実に驚いていました。以下の研究結果です。

\*毎日 90 分の仮眠をとっている人は、30 分の仮眠をとる人よりも病気になりやすい。

\*毎日 60 分以上の仮眠をとると認知症の確率が約 2 倍になる。



(3) だれもが生活しやすくなるために

こんどうてつひろ  
後半は、近藤 鉄 浩 先生

現職:宇部フロンティア大学短期大学部 保育学科教授 (学科長)  
社会福祉士



「宇部市の福祉—障害者差別解消をめぐる—」と題して、共生社会を示唆する内容を話されました。障害のある人が、障害のない人と同等に、社会のあらゆる場面に参加して尊厳をもって生きていけるように、「社会」の方(制度や物理的環境、価値観など)を変えていこうという考え方を具体的に話されました。社会の障壁を私たちの心から取り除くことから「福祉」や「共生」が始まると受け止めました。